

アジアの友邦と共に !!  
ミャンマー教育推進プロジェクト同志会  
団長 衆議院議員西村眞悟

最新情報No, 7

平成20年5月30日発行



ヤンゴン市内にあるヤンゴン大学 倒木した木と共に壊れた門扉が積み上げられています  
平成20年5月16日撮影



折れた枝と切り株、建物は大学校舎

## トンテ小学校ペンキ塗りと花壇造成

平成19年10月31日発注した学校屋根ペンキ塗り（\$89）と12月17日発注の花壇（\$345）に対し現地から報告がきました。ペンキ塗りは季節はずれの大雨の為、大幅に遅れたそうです。



### 翻訳文

村人、生徒と教師全てに代わり、私、パヤゴト村の村長ウー・ウィン・オーワードが日本からの寄付に対して感謝の意を表すものです。

ウー・ウィン・オーワード 村長

平成19年（2007）12月14日



### 翻訳文

私、ウー・チョー・ナインは本当に日本からの小学校への寄付に感謝するものです。日本からの寄付された学校の屋根の再度のペンキ塗りで私は職を得ることが出来て収入の助けになります。私は日本からの寄付者が我々の国の他の貧しい学校へ寄付をされる事を望んでいます。

私は我々の学校の補修に感謝し私の家族も仕事をえられ収入の助けになることに感謝しています。

ウー・チョー・ナイン ペンキ塗り代表

平成19年（2007）12月14日



何人であるか判りませんが作業日数7日（予備日含む）ペンキ塗り人工代総額40,000kyatは日本円で¥3,566

ウー・チョー・ナインさんは専業農家です。

下左はウー・チョー・ナインさんの住まい全景、右は母屋





← ペンキ塗り終了、以前の色より濃く塗られています。  
↓ 塗装前



← 設立当初は白



← 今は、屋根と同じ色の赤

ここから花壇造成 ↓ 平成20年(2008)3月3日撮影



↑ 左半分は、ほぼ完成 中央は先生方

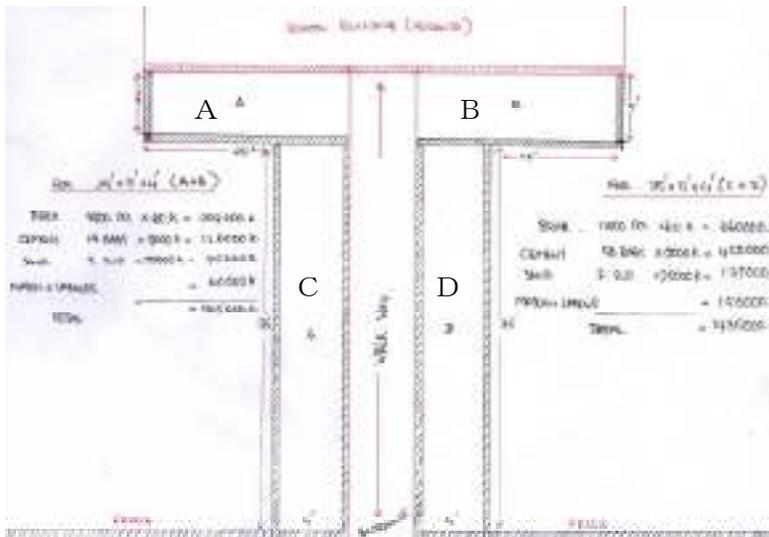


↑ 右半分造成中 土を半分ほど搬入



←左半分

↓ 村長提出の見積書（最新情報No, 6に拡大図有り）  
A & Bの部分を発注（発注支払い済み金額 \$ 3 4 5）



←右半分 赤いのは日干しレンガ



←先生方が育てている草花

これがきっかけになり、金澤さんに花壇を造ればと打診したところ、先生曰く「是非お願いします。花壇の世話は生徒と一緒にしたい。」「もし花壇の世話に基金をお願いできるのなら、学校への寄附と言うことで頂ければ有難いのですが。」園芸作業は、様々な社会的意義があり、忍耐力を育てる、協調性が生まれる、計画性が発生する、自己表現がうまくなる、思いやりの情が養われる、機械類の使用が上手くなる等々の、人間味豊かな情感を育てます。（国際園芸療法学会HPより）日本の学校では、この園芸作業を

通じ、いじめが無くなり気配りの出来る生徒達が育っているそうです。基金に関しては、月30,000kyat（\$23）、年間で\$276（2007/10/9交換レート¥120.36 日本円¥33.219）2ヶ月に1回先生に手渡しする事で合意しました。当初先生方は、写真に見られる草花は丈夫で長持ちするので、これらを育てたいと言っていました。生徒達の理科教材として教える場合多年草でなく1年草若しくは2年草のほうが適していると言うことで種子はヤンゴンで購入する事になりました。



←ヤンゴンで買い求めた花の種→

「印刷されている花が咲くかは解りませんが、あまり期待しないで下さい・・・いま、学校は4月上旬～6月上旬まで休みなので、その間は我々村民が世話します。種を蒔いて育つまで45日かかります。」

村長の話

←種の袋を持つ村長





1面から続く

なぜ子供たちは凶悪犯罪に  
関わらされるのか。大塚氏が、殺人と凶悪犯罪  
を引き起こした児童、生徒の  
在籍校を訪ね歩いて10年以上  
になる。取材は、10年以上の  
学校の訪問や取材、また  
一輪の花も咲いていないこ  
だ。

今年5月、福岡県産経松  
市で高3男子が母を刺殺し  
た。この事件で、大塚氏は松  
津松から車で1時間半か  
けて、少年の母校の町立中  
学を訪ねた。そこは緑が一面  
に生え、まるで廃校のまじ  
った。

「そこに毎日通う生徒たち  
はどんな気持ちでこのまじ  
ろか。これでは気持ちがま  
んでしまふのは当然です」と  
大塚氏。少年は進学後初めて  
自殺し、倉生活も十分なが  
ったという。

神戸市で中3男子が小3男  
児を殺害した産経豊橋市  
地蔵原の頭部が置かれた白い  
校門には、枯れ草が生え  
た十数個のプランターが置  
かれた。当時花壇への週末  
も同じだった。潤いがなく無  
機質な校地。それをどう改善  
する教員の姿もある。

少年による凶悪犯罪は、あ  
る日突然起るものではない。  
殺伐とした空間で、心身とも  
に均衡を失って犯罪に突き進  
むのである。

「荒廃の空間作り」。真  
田での大塚氏の試みは、多岐  
にわたる。前述した和食の給食による  
「身体づくり」と花壇づくり  
による心の教育「こころ」だ。  
荒れた学校に赴任した大塚  
氏は生徒たちと雑草だらけの  
校地を耕し、花壇づくりをし  
た。地味くさりから始めると  
格花壇だった。

生徒は雑草が、水やりが重  
しななかった。ボールを蹴っ  
て花壇に踏み込む生徒もあ  
った。

ところが芽が出た。荒れた  
生徒が変わり始めた。小さな  
苗をじっくり育て、丁寧に  
水をやるようになった。踏  
み込む生徒もなくなった。大  
塚氏は毎晩、きょうと園の照明  
で校庭を照らして30本から80  
本の花を植え替えた。生徒が  
悲しむ姿を見なくなった。  
雪から夏にかけて地味な花  
が咲き誇った。生徒は美しい  
ものを美しいと感じたのだら  
う。花壇にボールが入るこ  
もなくなった。

10月末、記者は真田の山あ  
いにある産経小学校を訪ね  
た。サルビアなど数種があ  
る数の花々からバントを分け  
たように、黄色や白色のネク  
スが花開いていた。

西日本産経新聞50周年を  
記念に撮影した。前年春、7教  
室に植えた300鉢のパンシ  
ーは今春、ひと鉢も枯れてい  
なかったというのだ。

「卒業式では、体育館の場  
上と花壇にはこころひらいた  
鉢を並べて見送りました。そ  
の鉢が真田に花開いた。10年  
新一年生を迎えました」  
「【飯給食】と【花壇づ  
り】が、心身ともにゆとり  
ある子供たちを成長させてい  
る」とがうれしかった。

（半田久美）

## 小さな苗を慈しむ花壇作り

6年生が育てた見事なネクスの花(10月  
末、長野県上田市の産経小学校)



なを、一面は『やばいぞ日本』「荒廃・一変させたご飯給食」が掲載されてました。



↑平成19年9月13日撮影 雨季  
水浸しの大地



↑平成20年3月3日撮影 乾季  
ひび割れの大地 この間6ヶ月



↑平成19年6月18日撮影  
道路から校舎を見る



↑平成20年3月3日撮影  
校舎側から道路を望む、橋の部分が埋め立  
てられ撤去されてました



←富士写真 FinePix E510：金澤さんの会社所有のカメラが1台壊れたと言  
うので、当プロジェクト取材用に単3電池×2使用のデジタルカメラをオー  
クシオンで落札しました。単3電池は海外何処でも入手可能なので利便性か  
ら選びました。箱入り新品で型は少し古いのですが、増設メモリーを含め  
¥12,007でした。平成20年2月購入（詳細は会計報告をご覧ください。）  
4月22日金澤氏来日、デジタルカメラと賛助金US \$ 2,000をお渡ししました。  
3/5交換US \$ 2,000 交換レート@106.43 ¥212,860

## ミャンマーのヤンゴン（ラングーン）を直撃した台風

サイクロン＝ハリケーン＝タイフーンは同意語と解して良いでしょう。

- ・サイクロン (cyclone) はインド洋で発生した大規模な熱帯性低気圧
- ・ハリケーン (hurricane) メキシコ湾やカリブ海で発生し北大西洋で発達する熱帯性低気圧
- ・タイフーン (typhoon) 日本の南方海上に発生し発達する熱帯性低気圧

ヤンゴンに向かった金澤さんは、5月6日タイのスワナプーム新国際空港で足止めされ現地情報は入ってきませんが、CNNの報道に依ると5月2日沿岸部に上陸し3日にヤンゴンを通り、道路、電気、通信網が破壊され、特に沿岸部で多くの死傷者を出している模様です。



5月7日：左図を見ると、海拔4～5mの三角州の上に建つトンテ小学校も、ヤンゴンから直線距離で60km北東に位置するバゴの寺子屋もサイクロンの進路に当たり被害が心配です。今回のサイクロンは風速50mを越し、沿岸部は4mの高波が押し寄せ、雨量は600mm (CNN)

5月9日：ミャンマーで唯一取材しているCNNはエヤワディ管区（大三角州地帯）の主要都市ボガレイから発信、ボガレイだけで1万人が死亡したと伝えています。

5月11日：ミャンマー国営テレビは、死者28, 458人行方不明者33, 416人と発表、被害者数は増える見込み。

5月13日：新聞報道に依れば、軍事政権は救援物資の受け入れを承諾、但し救援人材派遣受け入れには難色。

5月13日：金澤さんがヤンゴン入り、入国出来ない間は、ベトナム・ホーチミンで仕事をしていたそうです。

5月14日：金澤さんよりヤンゴン市内の写真が配信されました。車道の倒木は撤去されました。



↑電柱がトラックを直撃

↑ミャンマーでは数少ない土木機械

↑なぎ倒された木々

5月15日：ヤンゴンより、日本を含め外国からは赤十字、AMDA、国境なき医師団は現地入りしています。金澤さんの社員の家も水没したり屋根が吹き飛ばされたりで、その対応で今は金澤さん一人が事務所番をしているそうです。詳細は不明ですが、**トンテ小学校の屋根が吹き飛ばされました**。の報告、残念無念・・・バゴの寺子屋は、まだ判らないとのこと。

一番被害の大きかったボガレイは途中まで車で行けるのだが、その先は小舟でしか行けない、その小舟がほとんど流され、無いに等しく物資が運べない状況だそうです。

5月16日：Myanmar Explore（金澤さん会社のHP）のブログ「ランド屋太郎」より抜粋

ミャンマーにはミャンマー山岳協会と言う団体があるんですが太郎はミャンマーの山岳協会の登山の仕方が大嫌いでしょうがなかったんです。山に少なくとも30人、大体50人から100人で登り、多い時は200人で一度に登るんです。太郎的には内心「こんなの登山じゃないよ」と思ってたし口にも出してましたが、今、彼らが団体でヤンゴン近郊でボランティアに励んでいます。太郎の会社のスタッフ2名が山岳協会のメンバーですが電話で「先生、今週は事務所にいけません。川向こうにボランティアに行くんで」もちろん、事務所よりボランティア優先でOKです。そのあと、彼から以前お客様が**寄付で建てられた学校の屋根が飛んでた**と言う連絡が来て落ち込みましたが・・・このスタッフはインド系のイスラム教徒です。山岳協会では宗教に関係なくボランティアに励んでいるようです。昨日はマンダレーから来た僧侶達がクンジャンゴンまでトラック10台に援助物資を載せて政府を通さずに直接被災者に配ったそうです。太郎のミャンマーの師匠のような人が言ってます。「今回のサイクロン被害では、政府の対応が悪いんで一般の人たちがたくさんボランティアで動きだしているようですね。こういう動きは今までのミャンマーでは考え

られなかったことでは、こうした中から本当のリーダーたちが生まれてくればいいのですが。自分たちで変えていってほしい。」

5月16日：軍事政権発表、死者77,700人、行方不明者55,900人 当初発表より死者数が倍増しました。まだ増える見込み。

5月19日：対応が遅いと各国の非難が高まる中、軍事政権ようやく各国の人材援助受け入れ表明。平成7年（1995）1月17日、日本で起きた阪神淡路大震災に対応した“村山富市首相”に匹敵!! 対応の悪さでは日本の方が先輩です。トップの緊急判断に対する欠如が助かる人も見殺しにする。

5月21日：「日本ミャンマー議員連盟」は超党派で30名、会長は参議院議員 渡辺秀夫代議士事務局長は衆議院議員 西村眞悟代議士です。

西村眞悟国会事務所提供、外務省より提出「ミャンマーに対する各国支援」を抜粋

※日本円換算は5/21付為替レート\$1=¥103.40を使用（事務局）

日本：支援総額13億2170万円（NGO支援含む、テント、発電機、ビニールシート、毛布、他）

米国：支援総額1625万ドル（日本円換算16億8025万円）C-130輸送機4機が救援物資を積載しヤンゴンに到着（12日）

独：支援総額400万ユーロ（約624万ドル=約6億4521万円）

英国：支援総額1700万ポンド（約3400万ドル=約35億1560万円）

タイ：9トンの物資を空輸と10万ドル拠出（6日）更に50万ドルと衛星携帯電話50機等を寄贈、支援金額計60万ドル（約6204万円）

中国：物資及び資金合わせて100万ドル（6日）3000万元を8日に追加（約400万ドル）計500万ドル（約5億1700万円）

インドネシア：100万ドル及び輸送機2機で物資を空輸（約1億3400万円）

韓国：10万ドル相当のテント等（6日）200万ドル相当の物資追加支援（7日）計210万ドル（約2億1714万円）

豪：支援総額約2500万ドル（約25億8500万円）31トンの毛布、医療品等を豪空軍C-17輸送機で空輸（13日）

EU：総額1700万ユーロ（約2550万ドル=26億3670万円）

ベルギー：総額100万ユーロ（約150万ドル=約15億5100万円）

オランダ：100万ユーロ（約150万ドル=約15億5100万円）

仏：6日20万ユーロ（約31万ドル=約3205万円）15日物資約1500トン（米1000トン、避難用物資、医薬品等）を積載した仏海軍艦船がインドより出航

伊：12万3千ユーロ（約19万ドル）の緊急援助に加え130万ユーロ（約204万ドル）の拠出表明、航空機約60機がヤンゴン到着予定（14日）総額約2億2365万円

ノルウェー：総額5000万クローネ（約1000万ドル=約10億3400万円）

デンマーク：支援総額1260万クローネ（約250万ドル=2億5850万円）

フィンランド：30万ユーロ（約47万ドル=約4859万円）

露：毛布、食糧、テント等の物資110トンを空輸

エストニア：50万クローン（約5万ドル=約517万円）

カナダ：200万加ドル（約200万ドル=約2億6800万円）の人道支援表明、緊急避難用品を載せたC-17輸送機がカナダを出発（14日）

ギリシャ：20万ドル（約2068万円）の提供表明、人道支援物資をギリシャ軍貨物航空機2機で空輸

チェコ：500万ユルナ（約30万ドル=約3102万円）の拠出表明

ポーランド：UNICEFを通じて50万ズロチ（約15万ドル=約1551万円）

オーストリア：25万ユーロ（約35万ドル=約3619万円）の無償資金協力と17万ユーロ（約26万ドル=約2688万円）相当の救援物資

スペイン：50万ユーロ（約77万ドル=約7961万円）の援助物資

ルーマニア：10万ユーロ（約15万ドル=約1551万円）の緊急援助発表

ラトビア：2万ユーロ（約3万ドル=約310万円）

ウクライナ：ミャンマーに対する支援決定

キプロス：3万ユーロ（約4万5000ドル=約451万円）

ルクセンブルグ：支援総額30万ユーロ（約45万ドル=約4653万円）

スイス：50万フラン（約47万ドル=約4859万円）、スイス赤十字は20万フラン（約19万ドル=約1964万円）

シンガポール：20万ドル（約2068万円）相当の援助物資  
 NZ：150万NZドル（約119万ドル＝約1億2304万円）の資金援助  
 インド：救援医療用品をインド軍軍艦2隻で輸送、テント設備等インド空軍輸送機5機で空輸  
 米400トン及び軍医療チームを派遣予定  
 カンボジア：5万ドル（約517万円）の義捐金、1万ドル（約103万円）をICRCの支援に  
 支出（ICRC＝赤十字国際委員会）  
 北朝鮮：2万ドル（約206万円）を義捐金提供とミャンマー側発表、北朝鮮は義捐金提供に対し一切発表なし  
 スリランカ：2万5000ドル（約451万円）を提供  
 ラオス：2万ドル（約206万円）の義捐金と2.5トンの食糧物資を提供  
 ベトナム：20万ドル（約2068万円）の緊急援助表明  
 フィリピン：特別医療チームを派遣  
 マレーシア：50万リンギット（約18万ドル＝約1861万円）の支援物資と1000万ドル（約1億340万円）の供与表明  
 イスラエル：10万ドル（約1034万円）の緊急食糧供与  
 ブラジル：住居用資材及びテントを緊急支援物資として提供  
 カタール：45トンの救援物資を空輸  
 アルゼンチン：100万リットルの水浄化剤の供与決定  
 トルコ：人道的支援として1000万ドル（約1億3400万円）供与決定

こうして各国の支援を見ると、多くの国が自国の軍隊を活用し、海から空から敏速な対応をしていることが判る。西村 眞悟団長が述べている「国防は国民にとって最大の福祉である。」もうなずける。も一つ、日本は国連に巨額な分担金を拠出しているが、またアジア開発銀行を通じ中国に3000億の金を出しているのだから、ミャンマーに13億とみみちいことしないで、1000億出して、軍政に協力し、外交努力をし、被害が収まったとき、軍政から、これからはアセアン諸国と協力し民主主義に移行する位の解答を引き出しても良いではないか。（事務局）

5月24日：軍政、人的支援全面受け入れを表明、物資は3200トンがヤンゴンに到着済み

5月26日：金澤氏帰国、16日の話の内容を写真にして持参してくれました。

ミャンマー山岳協会のボランティアはヤンゴンの対岸ダラからデルタ地帯を南下して60kmの所にあるタンリンに向かいました。被害が一番大きかったボガレイは各国の支援物資が多く届き始めていますがタンリンはまだまだ手薄なのと陸路で行けるので選んだそうです。



←ゴミでは有りません。ミャンマー山岳協会の人達が衣類、食料品を袋詰めにした山です。

→ペットボトルの水、食用油、バケツ、ビニールシート  
 本格的雨季になるミャンマーで、ビニールシートは多方面に活用でき大変有り難がるそうです。そういえば、西村団長の家も雨漏りがひどい時期、屋根がビニールシートで覆われてました。



↑水没した農地

→白い三角はボゴタ、その手前は2人の子供  
 左端と、牛の右側は小舟





タンリンまで60km、途中20km地点のトンテ小学校にわざわざ立ち寄り撮ってくれた写真  
ミャンマー山岳協会のボランティアに感謝



塗り立てのトタンが剥がれ痛々しい、それでも屋根全体が吹き飛ばされず一安心、写真を見る限り他の部分の損傷はないようです。まだ学校は休み期間中ですが、子供達が出入りしている所を見ると、避難所として解放しているのかも？新学期は予定どおり6月からとのこと、トンテ小学校の在るバヤーゴッティ村は戸数80、人口450（平成17年10月調べ）家の損壊は有る物の、死者は無し報告を受け一安心

タンリンに向かう途中、車から見たサイクロンの爪痕です



↑橋の欄干で援助を待っている人々



↑交通機関も徐々に復活しているそうです



↑写真では判り難いですが、倒壊家屋の側で人々が再建にはげんでいます



↑援助物資の一つテント



↑ビニールシートを使い米を干している





↑ 倒木を切断、更に細かくし燃料に使用



ミャンマー山岳協会のボランティアの援助物資を待つ人々、雨季特有の雨が降ってます。ミャンマーの場合、こうした僧院が、物資の中継地、避難所になっているそうです。



↑ 足下をよく見ると殆どの人が裸足



↑ こちら濡れても平気な人達？

今回のサイクロンは80年から100年に一度のことなので、多くの住民は初めての経験だそうです。地球温暖化の現象と言われ、ミャンマーでも異常気象は頻繁に表れているそうです。



↑ 援助物資の到着



↑ 荷下ろし



↑ 僧侶に受け渡し

荷下ろし終了ヤンゴンに向けて帰路→  
送る村民の笑顔



以上写真提供 ミャンマー山岳協会

5月26日：金澤氏の話、バゴの貧乏寺子屋の情報は、今のところ入って無いそうです。金澤さんのスタッフも自分の家の修理、それが終わると奉仕活動に出て行き、手が回らないそうです。デルタ地帯の救援も6月上旬になると組織立ち落ち着くと思うので、落ち着き次第、トンテの小学校とバゴの貧乏寺子屋へ詳しい状況を調べに行きます。4月22日に金澤さんに託した\$2000(¥212,860)の内、バゴの貧乏寺子屋へ\$500(約¥53,215)日頃取材協力を頂いている金澤さんの会社の人達へ見舞金として\$500を拠出しました。トンテ小学校の今後に関しましては、村長や先生方と相談して決めましようとなりました。